

第45回

喜多流

青年能

田村 谷 友矩

二人静 狩野 祐一

舎利 金子 龍晟

2019年5月25日(土)

◆12:00開演(11:15開場)◆

十四世喜多六平太記念能楽堂

主催: 公益財団法人 十四世六平太記念財団
協力: 喜多流職分会
後援: 品川区・品川区教育委員会

チケットご購入のご案内

一般4,000円(前売3,500円)/学生2,500円(前売2,000円)

全席自由席

発売日: 2019年2月24日(日)

インターネット 24時間対応/要事前登録(無料)

喜多能楽堂ホームページ

<http://kita-noh.com/>

【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

②窓口(喜多能楽堂事務局)

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのWeb決済)、ご予約の際画面に表示された番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813

【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送

チケット代金を指定の郵便振替口座にお振込みください。入金確認後、チケットをお届けいたします。

③窓口(喜多能楽堂事務局)

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓 □ 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813

【お受取り・お支払い】お支払いは現金のみとなります。

ご注意

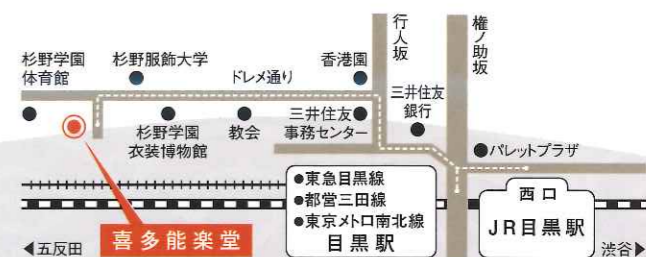
- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー見所での飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

・各同人でもチケット受付しております。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL 03-3491-8813



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

お客様専用駐車場はございません。お車でのご来館はご遠慮願います。

次回喜多流青年能予告

2019年9月21日(土) 11:15開場/12:00開演

能「賀茂」佐藤 陽

能「夕顔」高林 昌司

能「雷電」友枝雄太郎

ほか狂言・仕舞

番組

三輪 高林昌司
氷室 佐藤 陽

友枝雄太郎
佐藤寛泰
塩津圭介
狩野祐一

仕舞

能

田村

後シテ(坂上田村麿の霊)
前シテ(童子)

谷 友矩

野口能弘
野口琢弘

大鼓 亀井洋佑
小鼓 田邊恭資

熊本俊太郎

野村拳之介

吉田祐一

後見 高林呻二
友枝真也

高林昌司 粟谷浩之
佐藤 陽 狩野了一
佐藤寛泰 長島 茂
金子龍晟 粟谷充雄

地謡

狂言

宝の槌

シテ(太郎冠者) 野村万之丞

アド(主) 能村晶人
小アド(すっぱ) 野村万蔵

休憩二十分

能

シテ連(菜摘女) 友枝雄太郎

シテ(静の霊) 狩野祐一

二人静

ワキ(勝手明神の神職) 大日方 寛

大鼓 原岡一之
小鼓 住駒充彦

栗林祐輔

アイ(太刀持) 河野佑紀

後見 狩野了一
佐々木多門

高林昌司 友枝真也
佐藤寛泰 友枝雄人
塩津圭介 中村邦生
谷 友矩 大島輝久

地謡

休憩十分

能

シテ連(韋駄天) 金子天晟

後シテ(足疾鬼) 金子龍晟
前シテ(里人)

舍利

ワキ(旅僧) 野口琢弘

アイ(舍利堂堂守) 上杉啓太

大鼓 柿原光博
小鼓 曾和伊喜夫

太鼓 林 雄一郎
笛 藤田貴寛

友枝雄太郎 佐々木多門

佐藤 陽 高林呻二

塩津圭介 金子敬二郎

狩野祐一 内田成信

後見 大島輝久
高林昌司

地謡

附祝言

五時十五分頃終了予定

田村(たむら)

東国の僧が京都・清水寺へとやってくる。そこへ地主権現に仕えるという少年が現れ、ほうきを携え桜の木の下をはき清める。僧は少年に声をかけ、清水寺が建てられるまでに至った物語を聞かせてほしいと頼む。少年はこれに応え、大同二年に清水寺が建立されるに至る経緯を詳しく語って聞かせる。さらに少年は僧を伴なって、清水寺から眺めることの出来る春の京都の名所を教え、春の絶景や清水寺の霊験あらたかさを称える。あまりに詳しいため、僧が素性を少年に問う。少年は気になるのであれば、自分の立ち去る方向を見ていなさいと言ひ、田村堂というお堂の扉を開き中へと消えて行った。

門前の者から話を聞いた僧は、先ほどの少年が坂上田村麿の霊であると確信し、夜もすがら読経を行う。すると田村麿が在りし日の甲冑の姿で僧の前に現れる。田村麿の霊は、清水寺の千手観音の加護によって、伊勢・鈴鹿の逆賊を平定した模様を勇壮に再現し、千手観音の霊験あらたかさを称えるのであった。

二人静(ふたりしずか)

吉野にある勝手明神では正月七日に、若菜を神前に供える行事があった。その若菜を摘みに出た菜摘女一人が帰途、見知らぬ女に声を掛けられる。女は、吉野へ帰ったら経文を書いて、自分の跡を弔うよう社人たちに伝えてほしいという。菜摘女は不思議に思つて、女に名を尋ねる。女は自分のことを疑う者があれば、その時はあなたに乗り移つて名を名乗ろう、と言ひ、残り菜摘女の前から姿を消した。

菜摘女は吉野へ戻り、このことを社人に報告するが、話すうちに口調がまるで別人のようになってしまふ。社人が問い尋ねると、源義経に仕えていた静御前の霊が菜摘女へと乗り移っていることがわかった。勝手明神の宝庫に納められていた彼女の舞衣が引き出され、これを着せると、静御前の霊本体も同じ姿で現れる。二人の静御前は義経の吉野を落ち延びて行った有様を再現し、また昔を偲びつつ桜舞うなか閑静な舞を舞う。再び自身の亡き跡を弔ってほしいと願ひ、静御前の霊は消えて行った。

舍利(しゃり)

出雲の国から京都へやってきた僧が泉涌寺を訪れる。泉涌寺には、仏の遺骨の一部である仏舍利がまつられていた。僧が仏舍利を拝んでいると、辺りに住むものだという男が現れ、自分も仏舍利を拝みたいという。僧は男を中に招き入れ、閑静な境内で仏教の今昔、泉涌寺の徳の高いことを語り合う。しかし突如として空が曇り、雷鳴が響き渡る。僧がどうしたことかと怪しむと、男が自分こそはかつて仏舍利を強奪したことのある足疾鬼(そくしつき)であると言ひ放つた。男はたちまち鬼の本性を現し、仏舍利を奪つて天井を破り、天空高くへと飛び去って行ってしまった。

やがて仏教の守護神である韋駄天が現れ、足疾鬼の追跡を始める。天界を縦横無尽に逃げ回る足疾鬼であったが、韋駄天らに完全に包囲されてしまい、大地へと叩き落される。韋駄天に捕えられ泣く泣く仏舍利を返し、足疾鬼は意気消沈して行方知らずとなった。